



10月11日（日曜日）本町秋祭りの
4町“合わせ”にて笑顔の栗市長

ごあいさつ

平成 27 年 11 月 4 日

日増しに秋が深まり、市長室からも見えるあらみや公園の木々も紅く色づいています。この時期、秋の叙勲や褒章などの発表や、市の表彰式もありました。永年さまざまな分野でご活躍された皆さん、誠におめでとうございます。また、先日開催された「まなびいフェスタ」では中央公民館のサークルやさまざまな会の展示作品を拝見しました。たくさん作品の横に、見知ったお名前を見つけるにつけ「この方はこんなこともされているんだ」と改めて感心したり、その「隠れた才能」に驚いたりしました。いろいろなことに興味をもたれて、活躍の場がある、それを発表する場もあることが、大切でありそれがまた活力となります。

私自身も今年は地元、本町地区の秋祭りに参加させていただきました。獅子頭を持たせていただけるような年齢ではないのですが、子どもの頃から「棒ふり」をしたもので、まつりと聞くと何となく血が騒ぐというか、胸が高まる思いがあります。自分たちがした獅子舞を次代の子どもたちがつなぐ、さらにその次の世代の子どもたちへとつながり、うまくまわっていくことで地域の伝統を受け継いでいくことになります。また、それに関わったことが、いつまでもいい思い出となり、心も次世代へとつなげていくことも、大切なことなのではないでしょうか。

北国街道野々市の市も今年で5回目を迎えました。大事にしたいことは、この事業が市で企画したものではなく、この界限に住まわれる皆さんから自発的にこの地域を盛り上げようという機運の賜物であるということです。回を重ねるたびに充実し、定着しつつあると感じています。当然のことながらこの地域の賑わいが増し、元気になることを願っております。

こののち予定しております太平寺地内の文化交流拠点施設や本町2丁目地内の地域中心拠点施設の整備にもつながることですが、カタチの整備だけが先行してしまい、心がついていけないことでは寂しいことになります。出来上がる施設を受け入れる雰囲気も大切にしたいと思っております。

地方創生についてもこの10月に創生総合戦略を「選ばれるまちをめざして」ということで取りまとめさせていただきました。正直なところ、「地方創生」があがってきたとき、「市民協働」を進めてきてよかったと思えました。地方創生が叫ばれる前から市民協働に取り組んできたことで野々市にとっては追い風となっています。これからの時代、行政だけの力ではなく市民の皆さんと共に取り組む心構えが大切です。職員には常にそれぞれの担当分野を超えての庁内連携を図るよう伝えておりますが、野々市をこういうまちにしたいということは、行政だけでは立ち行きません。市民の皆さんも一丸となつての「チーム野々市」でのまちづくりをめざしていきたいと思えます。

今年も押し詰まってきました。「来年のことを言うと鬼が笑うなあ」と秘書広報課でつぶやくと、「市長もう新年の予定入ってきています」との返答がありました。新しい年に思いをはせつつ、今年来た道は、と振り返る時間も大事にしたいと思えます。